

巻頭言

2008.6月号
茗溪塾

夏は思いっきりのWIN-WIN

茗溪塾教務部03-3659-8638

茗溪塾塾長 宇野 雅春

受験勉強というのはどうしても、他人との比較や競争にさらされるものです。偏差値や順位や得点が示されたときにそれが起こります。自分と友達の差をそんなに大きく考えたことがなかったのに、受験勉強は無慈悲に、ランクづけをしてきます。そもそも学校制度が出来て以来、誰もがこの順位づけから自由ではありません。何となく優秀な人たちの集団が出来、それに対して劣っている集団というものを感じながら、それぞれ似たもの同士でグループに分かれていくこととなります。これはでも、よく考えてみると、自分の心の中で自分自身が作り上げていくコンプレックスにすぎないことがわかります。なぜなら、他人がその人のことを、そんなに突き詰めて真剣に考えるはずがないからです。でもコンプレックスというのは恐ろしいもので、些細な言動も全ていやみに聞こえたり、自分をあざ笑っているように思えたりするものです。

他人とのコミュニケーションをどう考えているのかが、ここでは重要な事に思えます。人間関係の心のあり方から、次の4つの考え方が出てきます。

第一番目は、「自分の目的のために人を利用する」「人を押しのけ進もうとする」「人の気持ちを考えずに、いつも我を通す」「身近な人に何か良いことがあると、ねたんだり焼き餅を焼いたりする」というWIN-LOSEの考え方です。スポーツや運動会などの勝ち負けの世界は、この考えの上に成り立つものです。最近多いのはこの逆の第二のパターンです。LOSE-WINです。「自己評価が低く、自分に価値や十分な能力があるとは決して考えない。」「何度でも妥協して自分の基準をあきらめる」「みんなが良ければ自分なんかどうでも良い」結果、受験でも「自分はどうせ無理」という態度をとり続けます。これは、他人のことを考えているようでいて実は自分の楽な方へ結論を引きつけているだけの考え方です。そして究極は、「もしオレが落ちたら、おまえも落ちるんだよ。」というLOSE-LOSEです。成績が上がらないのにイライラしたあげく、自分がダメならみんなもダメにしてやるという考え方で、授業をぶちこわしたり、「いじめ」をたくらんだりもします。これらの考え方は意図して行っているのではなく、いつの間にか自分の身に習慣として定着してしまうものです。受験においては上記の三つの考え方はいずれも成果につながらず、どれも結果として本人が満足できるものにはなりません。誰も喜んでくれない「成功」や、妥協ばかりの人生や、やられたらやり返すような復讐の人生も上の三つの考え方から出てくるものです。そのどれもが、「受験勉強」に当てはまります。

WIN-WINの考え方は、「私もあなたも勝てる」という1つの人生観です。「他の人が成功すると嬉しい」「自分も成功し、相手も成功する」「豊かに考える」という考え方です。自分自身と戦っていて、自分のベストに到達しようと頑張っている場合の競争は健全で、WIN-WINの考え方を促進します。「合格体験記」にはなぜかWIN-WINの考え方があちこちに見られます。つまり受験の成功も、WIN-WINが一番成功率が高いということです。先生と生徒、生徒と生徒、生徒と親、先生と親、どの関係も受験では重要です。その関係にWIN-WINが成立しているときにこそ、成功があるといえるのかもしれませんが。夏期講習を含む、長い夏休みを利用しての学習の中に、それを作るチャンスは潜んでいます。でも待っているだけでは、それは訪れません。自分が「楽チン」と考える「平和ゾーン」から抜け出して「勇気ゾーン」に一歩足を踏み入れることが重要です。

この夏、友達と一緒に、思いっきり頑張ってみませんか？自分が辛い時、人のつらさが分かります。人とのつながりが自分を鍛えてくれていると感じた時、そして相手の気持ちも理解できた時、WIN-WINが成立します。WIN-WINは「食べ放題のレストラン」に例えられます。自分一人が料理を独り占めしておいしい思いをするのではなく、ともに協力してともに沢山のおいしい料理を得るということです。「受験」は競争ではありません。自分の目標を達成するのに、人を蹴落とす必要は全くありません。ともに励まし合い、ともに学び合うことが、大きな力を生みます。夏は、それを経験する大きなチャンスだと思えます。